

## 国指定史跡伊予遍路道に「浄瑠璃寺境内」と「浄土寺境内」が追加指定されます

### 1.種別 史跡

### 2.名称 伊予遍路道

いよへんろみち

かんじざいじみち  
観自在寺道（愛南町）

いなりじんじゃけいだい りゅうこうじけいだい  
稲荷神社境内及び龍光寺境内（宇和島市）

ぶつもくじみち  
仏木寺道（宇和島市）

めいせきじけいだい  
明石寺境内（西予市）

だいほうじみち  
大寶寺道（西予市・久万高原町）

だいほうじけいだい  
大寶寺境内（久万高原町）

いわやじみち  
岩屋寺道（久万高原町）

いわやじけいだい  
岩屋寺境内（久万高原町）

じょうるりじみち  
浄瑠璃寺道（久万高原町）

じょうるりじけいだい  
浄瑠璃寺境内（松山市）

じょうどじけいだい  
浄土寺境内（松山市）

よこみねじみち  
横峰寺道（西条市）

よこみねじけいだい  
横峰寺境内（西条市）

さんかくじおくのいんみち  
三角寺奥之院道（四国中央市）

### 3.特徴など

遍路道は空海（弘法大師）ゆかりの寺社を巡る全長1,400キロメートルにも及ぶ霊場巡拝の道で、弘法大師の足跡を追体験する四国を一周する信仰の道です。

伊予遍路道は延長500キロメートル以上あり、四国のなかで距離が一番長い遍路道です。主要街道と重複するため、近代以降改変された箇所が多く見られますが、現在もなお旧状をとどめている箇所があります。

今回、松山市所在の第46番札所浄瑠璃寺、第49番札所浄土寺を伊予遍路道に追加指定する予定です。

### ○浄瑠璃寺境内

寺伝によれば、行基（668～749年）が和銅元年（708年）に布教のためにこの地を訪れ、仏法を修行する適地として伽藍を建立し、白檀の木で薬師如来像を掘って本尊とし、薬師如来がいる瑠璃光浄土から「浄瑠璃寺」とし、医王如来に因んで「医王山」と山号を定めたとされています。大同2年（807年）に、唐から帰朝した空海（774～835年、921年諡号「弘法大師」）がこの寺に留まり、荒廃した伽藍を修復したとされています。室町時代の末期には、伊予守護河野氏の重臣で地元ひらおかみちよりの豪族平岡通倚（生没年不詳）が寺塔を再興し、江戸時代中期には堯音ぎょうおん（1732～1820年）が本堂等の諸堂を再興し、現在に至っています。



浄瑠璃寺本堂（愛媛県提供）

### ○浄土寺境内

寺伝によれば、天平勝宝年間（749～757年）に孝謙天皇（在位749～758年）の勅願寺として、恵明上人（生没年不詳）により行基（668～749年）が彫像した釈迦如来像を本尊として祀り、開創された後、空海がこの寺を訪ねて、荒廃した伽藍を再興し、法相宗の寺院だったのを真言宗の寺院としたとされています。10世紀中頃には、空也上人（903～972年）が四国を巡歴し、天徳年間（957～961年）に3年間滞留し、村人たちへの教化に努めたとされています。建久3年（1192年）源頼朝が一門の繁栄を祈願して堂塔を修復しますが、応永23年（1416年）の兵火によって焼失したとされています。文明年間（1469～1487年）に河野通宣みちのぶ（生年不詳～1519年）によって本堂が再建され、その後、大師堂などを徐々に復興し現在に至っています。



浄土寺本堂（愛媛県提供）

4.所有者 浄瑠璃寺（浄瑠璃寺境内）  
浄土寺（浄土寺境内）

5.所在地 浄瑠璃寺境内 松山市浄瑠璃町甲282番2 ほか  
浄土寺境内 松山市鷹子町883番1 ほか